Photographic Society of
Zone System

ゾーンシステム研究会会報
発行日：2019.10
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.68

CONTENTS

・ フィルムテストレポート
　— ローライ RPX400（4×5）—
・ ゾーンシステム研究会第 22 回写真展作品(2)
・ フィルムテストレポート
　— Foma 400 Action（4×5）—
・ ２０年前のコダック Tmax100 4x5 シートフィルムは使えるか
・ ゾーンシステム研究会定例会日誌
・ インフォメーション

フィルムテストレポート
ー ローライ RPX400（4×5） ー

中島秀雄

電子画像の普及はフィルムや印画紙の需要を急変させ、私たちが長年使い続けてきたフィルム、印画紙の入手を難しくしてきた。感材の国内販売価格は従来の 3～5 倍に値上がりし、それは今も変わらない。

ところで、ヨーロッパのフィルムや印画紙の商品名をネットで見る機会が増えている。ゾーンシステム研究会は新たなフィルムに切り替えることも考え、以下のフィルム(ILHORD、Arista、foma、Bergger)を入手し、それぞれのフィルムの特性を会報に公表してきた。

尚、国産の富士フィルム Acros は一度生産中止を決定したが、今年、生産再開を発表してくれたことは大変ありがたい。

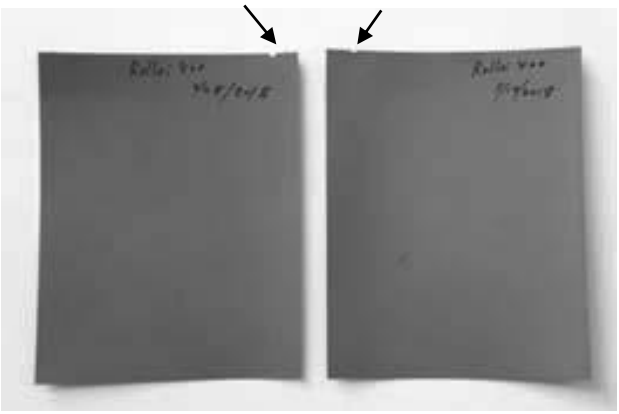
今回、私はローライの RPX400 を担当した。

ローライ RPX400 は、二眼レフカメラで有名なローライ社が生産したフィルムで、ローライがいつからフィルムを作り出したのか定かではないが、35 ミリカラースライド、ネガカラー、モノクロームフィルムを作っていた。4x5 サイズのシートフィルムは、数年前にネットで見るようになり、興味を持っていた。

(ローライ社は、1921 年に二人の研究者によって創立された。その数十年前にロールフィルムが発売されていたことから二眼レフレカメラに着目し、1929 年二眼レフカメラの製造にこぎ着けた。アマチュアを中心に中判カメラの誕生は写真の様々なジャンルに浸透し、一大カメラメーカーとなった。)

最初にローライ RPX400 フィルムの製造ミスについて報告しておきたい。

下の 2 枚のフィルムは、同じローライ RPX400 (製造は EU) 4x5 インチ・モノクロームフィルムで、2 枚とも乳剤面。左のフィルムは右上に V 字のコードノッチが見える。右のフィルムは左上にコードノッチが見える。全暗室でフィルムを持ったとき、コードノッチが右上にくるように持つと、乳剤面は手前になる。ゆえに正しいフィルムは左側のフィルムだ。外箱のデザインも、乳剤番号も同じではあるが、購入した時期と商店が異なっていた。明らかに製造ミスで、事情を話しフィルムを商店に送り返し、返金された。無駄な時間を費やしてしまった。



フィルムの感度テスト

RPX400 の公称感度は ISO 400

ゾーンシステムでは、フィルムの特性を十分引き出すためにフィルムの感度を事前に確認することになっている。いきなりメーカー指定の感度で撮影することはない。

ISO 感度測定のための撮影

18%グレーカードを均一に照明する。カメラをグレーカードに向けてスポット露出計測定し、値をゾーン I で撮影する。1 枚のフィルムを 1/4 に

区切って**様々な感度**で撮影する。

撮影したフィルムを自分のやり方で現像する。

フィルム現像(ネガ作り)を左右する因子は、現像液、現像方法、現像時間、撹拌、温度だ。

ローライフィルムの指定現像時間は、D-76 1:1 20℃ 15 分となっている。今までの経験から 15 分現像は硬調ネガになると判断し 10 分とした。ブローニー用のパターソンタンクに市販の MOD54 ラックを使うことにした。ローライのフィルムはベースが薄いため撹拌中にフィルムラックから離れてしまう。そこで、スヌケの 4x5 シートフィルムをベース面に抱き合わせてラックに装填し現像した。

1枚のフィルムにマスクをつくり4カ所撮影した。ISO100,80,64,50 と撮影し、現像したネガを濃度計で測定し、数値を手書きした。もう一枚のフィルムには ISO200,160,125 と撮影し、現像してみたが濃度は薄く感度を見つけることはできなかった。

濃度計を使ってネガ濃度を測定

フィルムベース濃度+カブリ濃度+0.1 がゾーンⅠの基準になり、その値を満たす濃度が感度となる。D-76 1:1 20℃ 10 分現像したネガを濃度計で測定した。

感度	濃度
200	0.14
160	0.18
125	0.17
100	0.18
80	0.19
64	**0.22**
50	0.26

・RPX400 のフィルムベース濃度+カブリ濃度は 0.11 となった。

・0.11+0.1=0.21 が感度基準となるから、**ISO64 が実用感度となる。**

メーカー指定の感度は ISO400 となっているが、私のやり方で進めると ISO64 という値になった。

ISO64 に見合う標準現像時間をみつける

感度テストで 10 分を現像時間としたがその時間が必ずしも標準現像時間とはならない。そこで ISO64 に見合う新たな現像時間を見つけることになる。

フィルムの感度 ISO64 をスポットメーターにセットして、グレーカードを測定し値をゾーンⅧに合わせる。ゾーンⅧを見つけることが標準現像時間となる。

ゾーンⅧの値で 4 枚のフィルムに露光する。現像タンクに 4 枚のフィルムを装填して現像するが、4 枚を別々の現像時間で現像する。**全暗黒**の中でラックから 7、8、9、10 分と一枚ずつフィルムを

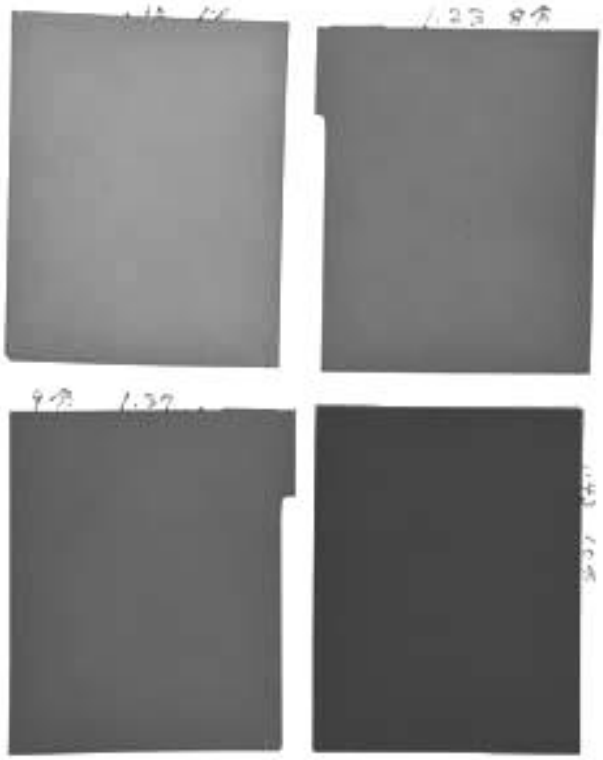
取りはずして停止液に入れ、何分現像のフィルムなのか区分けしておく。次に全暗黒の中で定着液に入れて撹拌し、3分でライトをつける。

結果、7分、8 分、9 分、10 分と現像したことになり、定着から予備水洗、QW溶液、本水洗と進め自然乾燥する。

乾燥したネガの濃度測定

現像時間	ゾーンⅧ濃度
10分	1.43
9分	1.37
8分	**1.23**
7分	1.16

・ゾーンⅧの平均濃度は約1.27程度であるから、**標準現像時間は8分**とした。



実践撮影

下の写真は、妙高高原の白樺を撮影。

・ローライ RPX400 ISO64、白樺・ゾーンⅧ
枯木・ゾーンⅤ、オレンジフィルター

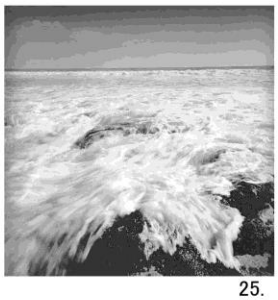
まとめ

ローライ社のフィルムRPX400/4x5インチ/25枚のフィルムは薄い用紙にはさまれ、黒のビニール袋二枚に包まれている。国産のフィルムやコダックのようにアルミ箔の密閉になっていない。輸送途中の温度や湿度変化に対応できるのか気になる。しかし、フィルムの特性を十分検証して使用すれば癖のないプレーンなトーンを持つフィルムで、ベースの抜けもよく風景や静物写真に合う優れたフィルムと感じた。また、撮影に使用したフィルターにも反応してくれた。平面性の問題や現像タンクのラックから外れてしまうこともあり、ベースに厚みがほしいところだ。

コードノッチのミスに関しては、メーカーの徹底的な検査を求めたい。

ゾーンシステム研究会第 22 回写真展［光への探求］作品（2）

アイデムフォトギャラリー「シリウス」［2018 年 11 月 8 日(木)～11 月 14 日(水)］

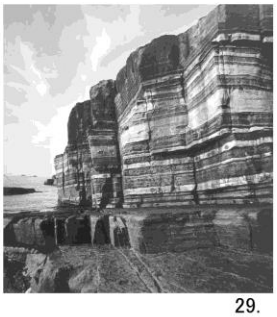


25.

26.

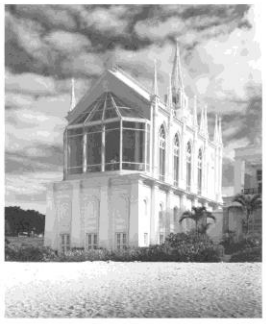
27.

28.



29.

30.



31.

25.「Washing」川北弘
26.「サマルカンド」松本ひさ子
27.「Winter Stream」川北弘
28.「サーファー・A」松本ひさ子
29.「ホルンフェルス」長谷川勇夫
30.「整列」長谷川勇夫
31.「渚の夢」鶴見明秀

32.

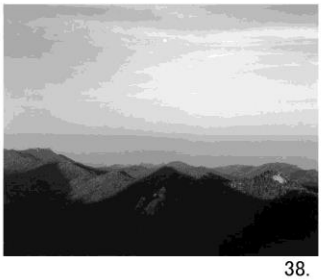
33.

34.

35.

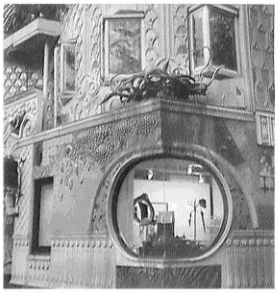
36.

37.



38.

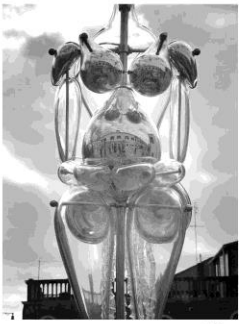
32.「熊沼」大内元
33.「an autumn breeze」大内元
34.「River and forest」畑文夫
35.「Cityscape, dusk」畑文夫
36.「原野秋景」皆川賢
37.「Origin」小川淳
38.「月の森」小川淳


39.

40.

41.

42.


43.

44.

45.

39.「東京 オモシロ建て物」倉又茂
40.「Colosseum」岡崎克之
41.「life（生命）」中澤悟
42.「Skitol」浜野次郎
43.「Venetian lady」岡崎克之
44.「Le stratum」大野雅弘
45.「アンテナ」中澤悟

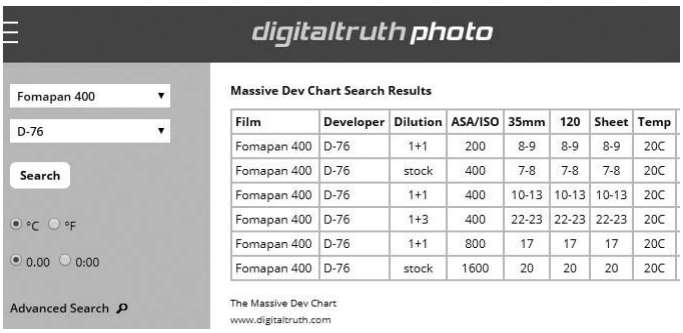
フィルムテストレポート
― Foma 400 Action（4×5） ―

鈴木知之

●現像条件

フィルム現像時間は、メーカーの説明書では D76 原液、20℃、7～8 分だが、D76(1:1)の表記は無い。

参考として、digitaltruth（世界最大級の現像処理データベース https://www.digitaltruth.com）の標準現像時間は D-76(1:1)、20℃、10～13 分であった。



Film	Developer	Dilution	ASA/ISO	35mm	120	Sheet	Temp
Fomapan 400	D-76	1+1	200	8-9	8-9	8-9	20C
Fomapan 400	D-76	stock	400	7-8	7-8	7-8	20C
Fomapan 400	D-76	1+1	400	10-13	10-13	10-13	20C
Fomapan 400	D-76	1+3	400	22-23	22-23	22-23	20C
Fomapan 400	D-76	1+1	800	17	17	17	20C
Fomapan 400	D-76	stock	1600	20	20	20	20C

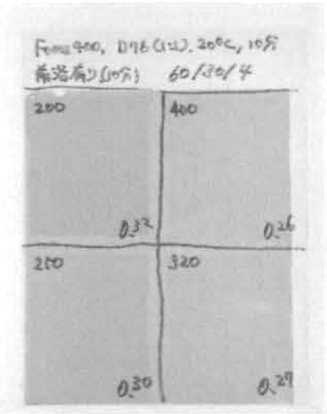
そこで初期条件として、ゾーンシステムに適合するよう現像時間を 10 分としてテストを始めた。
現像タンクは、バターソン+MOD54、撹拌は 60 秒初期撹拌/ 30 秒ごとに 4 回倒立。

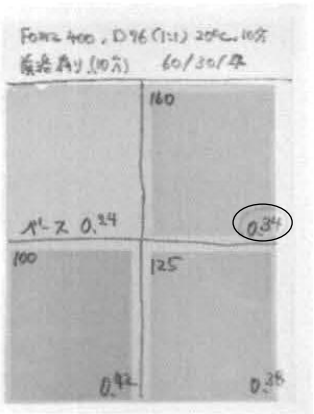
●実効感度の測定

D-76(1:1)、20℃、10 分、現像前に 10 分間 20℃の水で前浴処理。

カブリ+ ベース濃度 D=0.24

ISO感度	400	320	250	200	160	125	100
濃度	0.26	0.27	0.30	0.32	0.34	0.38	0.42



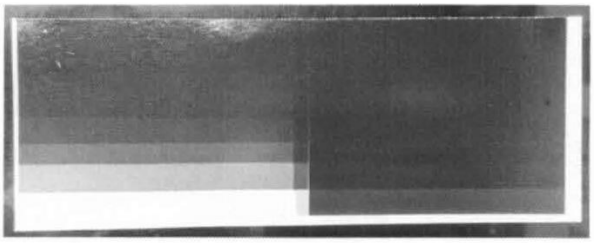


＊よって、<u>実効感度は ISO160</u> となった。

・カブリ濃度＋ベース濃度＋0.1=0.24+0.1=0.34 が感度基準濃度であるから、ISO160 となる。

●標準ネガ露光時間（SNPT）の決定

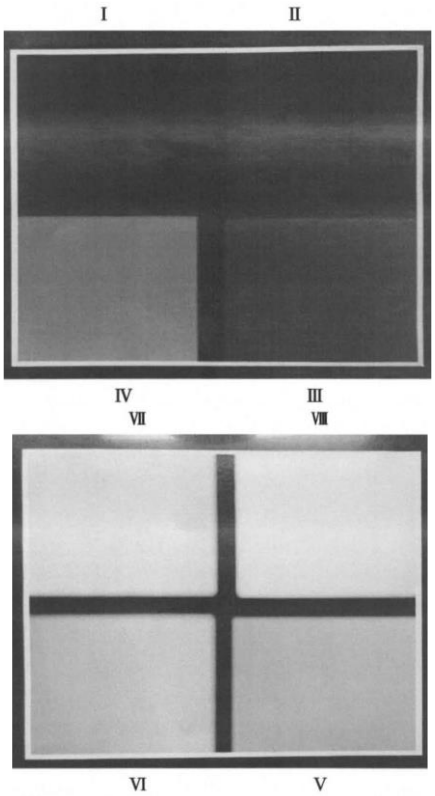
・引伸機に素ヌケのネガをセットし、3 秒単位で露光。
・引伸機: ラッキ-450MD(集散光式)、135mm、絞り f16
・印画紙: ADOX MCC110
（多階調パライタ紙、2 号フィルタ）
・現像液: フジパピトーノレ(1:1)、2 分現像



＊ネガの素ヌケとカラの部分を比較し、最高黒から 1 段戻り、<u>3 秒×5 回露光</u>になった。

●最大白の確認

・ゾーン Ⅰ～Ⅷのネガを SNPT でプリントし、ゾーンⅧと印画紙の白を確認。
・<u>標準現像時間は 10 分</u>であることを確認した。
・同時にゾーンルーラも作成した。



●現像時間と濃度の関係

D-76(1:1)、20℃、10 分/12分、ISO=160、現像前に 10 分間 20℃の水で前浴処理。

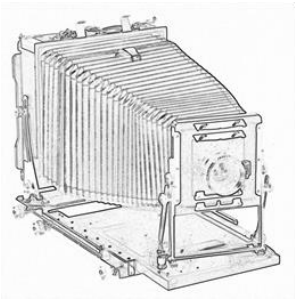
カブリ+ ベース濃度 D=0.22

ゾーン	現像時間	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ
濃度	10分	0.33	0.42	0.57	0.73	0.90	0.99	1.13	1.22
	12分	0.34	0.44	0.64	0.93	1.13	1.12	1.26	1.41

・10 分でほぼ適正なコントラストになった。

・ZoneⅧの濃度は 1.22。

・今回の集散光式引伸し機(ラッキー450MD)では 10 分となったが、散光式では 12 分以上と思われる。



●膜面剥離の問題

水洗中に膜面に無数の微細なツブツブが現れ、流水中で指で拭うと消えるが、乾燥後に剥がれたような跡が無数に残った。プリントすると黒いゴミとなって現れる。

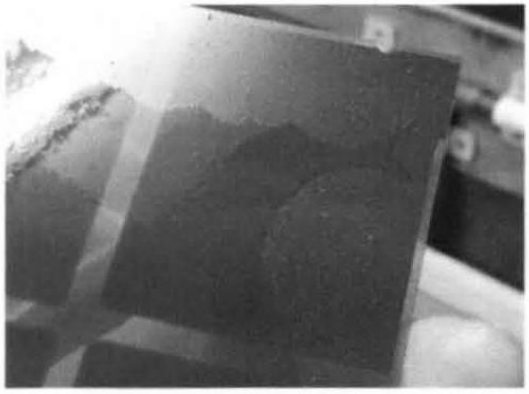
・スーパーフジフィックス (酸性硬膜定着液)、フジ QW を使用

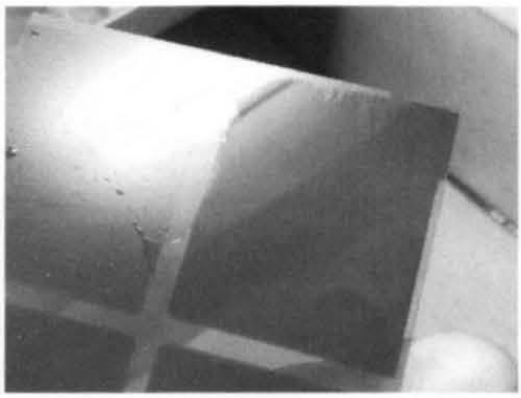
・水道水の水洗温度は 26℃、20℃10 分前浴も行ったが、ごく一般的な処理。

・剥離が起きるタイミングも不明。

・6 月のテストでは一切起きていない。

・1 時間ほど生フィルムを 26℃の水に漬けてみたが、膜面剥離は起きなかった。





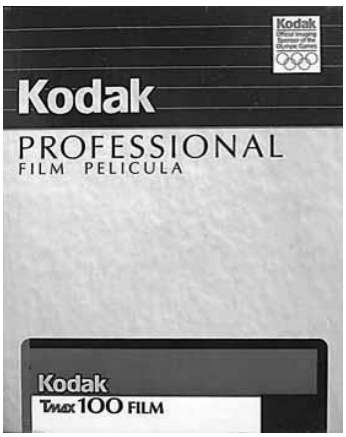
・推測？： 停止液以降の水温が 26℃前後と高めなので、薬剤の撹枠により、ゼラチンが膨潤した。

20年前のコダック Tmax100
4x5 シートフィルムは使えるか

金子正道

自宅物置から 1999 年 11 月期限のシートフィルム 1 箱が出てきました。冷暖房もなく夏は恐らく 40℃近くなる環境下で 20 年を経過したフィルムが使えるか興味津々です。Tmax100 は使ったことがないため、ネットに出ていた標準現像時間で処理しました。

●**撮影対象**：自宅前からの夏空を含む道路超しの駐車場
●**レンズ**：150mm
●**フィルター**：SC56（オレンジ YA3）
●**感度**：ISO64 と ISO032
●**絞り**：ｆ32
●**シャッター**：1/4 秒(ISO64)　1/2 秒（ISO032）
●**現像**
・タンク JOBO マルチタンク 2580
・予備水洗　20℃～20℃　４分
（かぶり防止層の着色料溶け出ない）
・現像液　D76 原液
・現像時間　5 分 45 秒　30 秒ごとに反転回転



■**現像結果**
画像でました。ほぼ適正に撮影できました。
●ISO64
・雲　ゾーンⅦ　1.01（1.08－0.07 ベース濃度）
・道路 ゾーンⅣ　0.51（0.68―0.07 ベース濃度）
●ISO032
・雲　ゾーンⅦ　1.16（1.23－0.07 ベース濃度）
・道路 ゾーンⅣ　0.61（0.68－0.07 ベース濃度）

＊ネガ、ベタ焼きと長辺 18 インチ相当の引き伸ばしは以下を見てください。

ネガ(ISO64)

ネガ(ISO32)

18 インチ相当の引き伸ばしプリント

ゾーンシステム研究会定例会日誌

2019 年 1 月 12 日(土)

文京区シビックセンター 会議室

・出席者：中島代表、石井（康）（ワークショップ受講済み・見学）、葛城（休会復帰）、岡崎、大内、鈴木武、中澤、橘田、小菅、小川、北野、松本、倉又、石井（政）、荒井、臼井、三浦、長谷川（勇）、金子、浜野、畑

■今年の写真展について

●テーマは「都市」「変貌する都市」

●各自２点出展（テーマ作品１点と自由作品１点）とする

●会場はポートレートギャラリーを申し込む（プレゼン作品を２月末までに提出する）

●テーマに沿った大判カメラの実技講習や暗室ワークを企画する。

■作例写真を投影

■サイバーグラフィックス社製品発注の件

●サイバーグラフィックス社にフィルムなどを取りまとめて注文する。

●担当は小菅さんに依頼したい。

■ゾーンシステムワークショップ

４月からワークショップを実施する予定。

（アトリエ・シャテーヌにて）

■京都写真展

京都写真美術館での写真展を計画したい。詳しくは総会の後にお話を聞いて判断したい。（会期中は会員の常駐が必要？）

■昨年写真展の清算

●会計より：昨年の写真展参加費用を精算し、一部を返金する。

2019 年 2 月 9 日(土)

文京区シビックセンター 会議室

・出席者：中島代表、荒井、石井政、臼井、大内、岡崎、小川、金子、川北、北野、橘田、倉又、小菅、古谷津、鈴木武、鈴木（知）、鶴見、中澤、長谷川勇、長谷川登、畑、浜野、松本、三浦、葛城（再入会）、石井（康）（新入会）

・欠席者

・白紙委任：越後、大野、金野、藤田、藤森、皆川

・休会：田中

・休会継続（※会報購読希望）：赤羽※、菅野※、佐久間※、佐野※、本田※

・保留（来年も無連絡なら退会）：石川、宮岡

・欠席（退会）：菊池

・欠席（無連絡）：宮内

【2019 年総会】

■総会の成立）

開会時出席者 22 名＋白紙委任 6 名（昨年末会員 32 名）

■議長選出：大内氏を選出

■中島代表挨拶（抜粋）

●今年のテーマは「都市」にした。都市はいつでも撮影ができ、創造物の集積である。風景写真で

は撮影会などの参加者が限定される。テーマを広く取るべきという外部の声もあった。

●最近はコストの面もありブローニーを使用する人が多いが、アオリが制限される。4×5 で構造物を撮るための技術指導を行いたい。

■昨年の活動実績と収支報告（畑）

■会計監査報告（川北）

■今年の活動計画と予算案説明（畑）

■その他議案

●監査役を川北氏から長谷川登氏に交替

●サイバーグラフィックス社から印画紙やフィルムを調達する係に小菅氏を選任。

●写真展で作品売上手数料を研究会へ収める慣例は取りやめる。

＊以上の議案は承認された。

■質問と提案

●写真展には先生のチェックを経ない自薦作品も展示できないか？

→研究会の方向性にふさわしい作品を展示すべきではないか。

2019 年 3 月 9 日（土）

文京区シビックセンター 会議室

・出席者（※印は作品持参）：中島代表、松本※、岡崎※、古谷津※、葛城※、橘田※、小菅、三浦、金子、臼井、荒井、皆川、大内、北野、石井康、鶴見、浜野、鈴木知、野村※（見学）、畑

■写真展

●今年の写真展会場としてポートレートギャラリーを申し込んだ。（11 月上旬を希望）

審査結果は 3 月下旬に通知。（万一 NG の場合は私設ギャラリーなどを検討する）

●写真展実行委員長は小菅氏にお願いする。

●今年のテーマ「都市の変貌」撮影のヒント（中島代表より）

＊被写体例

・都市の全体・・・展望台、高層ビル、ショールーム

・自然環境を含める・・・公園、運河、川岸

・中間層から・・・駅のホームから

・ダイナミックな眺め・・・工事現場

＊撮影技術

・オレンジフィルターを使う（青空）、逆光・シルエット、パノラマ（連続撮影）、定点観察（組写真）

・三脚が不可の場合の対策も考える。

■サイバーグラフィックス社からの調達について（小菅氏より）

●次回注文の締切は 3 月 25 日

（４月例会で手渡し）

■ファインプリント展トーク

●例会後、有志でギャラリーストークスへ行き、ファインプリント展のギャラリートークを実施。

・注）ファインプリント展とは、中島代表、中澤氏、畑氏、小菅氏、臼井氏による会員有志のグループ展。

2019 年 4 月 13 日（土）

文京区シビックセンター 会議室

・出席者（※印は作品持参）：中島代表、松本※、岡崎※、大内※、北野※、古谷津※、小菅※、浜野※、金子※、葛城、橘田、三浦、荒井、石井（康）、鈴木（武）、石井（政）、倉又、長谷川（勇）、皆川、畑

■写真展

●今年の写真展は 11 月 28 日～12 月 4 日ポートレートギャラリーに決定した。

●テーマは「都市」「都市の変貌」

●各自、テーマ作品 1 点、自由作品 1 点　計 2 点の出展としたい。

●出展作のうち、１点は半切以上にしたい。プリントクオリティの向上も目指す。

●写真展までのスケジュール表を 5 月に配る。（小菅委員長）

●担当者

・プレスリリース担当：荒井

・ＤＭデザイン担当：浜野

＊その他分担の自薦があれば連絡願う。

●テーマ「都市」の撮影について

●三脚を禁止される場合が多い。ブローニーの手持ち撮影、パノラマにつないだ表現も考えてみる。

●テーマの提示は総会より早く、前年中に行ってほしいという要望あり。

■研究会案内パンフレット

●研究会の案内パンフレットを作る。

●会員がいつも携帯し、大判写真に興味を持った人に気軽に渡せるデザインにする。

●半分に折りたたんで名刺サイズ。中島代表の作品や研究会の概要などを記載（英文も必要）

●デザイン担当：三浦

■4×5 基礎撮影会

3 月 16 日に新宿御苑で 4×5 基礎撮影会を行った。今後も実技講習を随時行いたい。

■ヨセミテ撮影会

●来年 5 月下旬から 6 月にかけて行う方向で中島代表が検討中。（アトリエ・シャテーヌとの共同企画）

●会員はぜひ参加してほしい。（作品展も予定）

■その他

中島代表の写真が「女性と社会的弱者にとっての気候変動」展に展示されている。

（2020 年 4 月 28 日まで）

http://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/

2019 年 5 月 11 日（土）

文京区シビックセンター 会議室

・出席者（※印は作品持参）：中島代表、小菅※、松本※、岡崎※、長谷川（勇）※、北野※、中澤※、石井（政）、石井（康）、臼井、小川、葛城、金子、川北、鈴木（武）、浜野、畑

■中島代表より

●都市の作例紹介（小泉定弘写真集より）

●ダイトランスファー技法の紹介

■写真展

●写真展日程案の説明（小菅委員長より資料配布にて説明）

●写真展への参加意思表示は、8 月例会で決定する。（DMに氏名を載せるため）

●作品の留意点（中島代表より）

＊テーマ作品（都市）と、それ以外の自由作品の 2 点を出展すること。

＊2 点中少なくとも 1 点は半切以上にすること。

＊写真の美しさを見せること。（トーン、シャープネス）

■その他

●5 月 18､19 日に妙高高原撮影会を希望する方は、至急中島代表に連絡すること。（有志による撮影会）

●6 月の例会後に写大ギャラリー「うつくしきゼラチンシルバープリントの世界」を見学予定（中島代表の作品も展示）

2019 年 6 月 8 日（土）

文京区シビックセンター 会議室

・出席者（※印は作品持参）：中島代表、岡崎※、小菅※、荒井※、大内※、臼井※、中澤※、松本※、石井（康）、鶴見、三浦、長谷川（勇）、金子、川北、鈴木（武）、畑

■中島代表より

●日経新聞の文化欄（６月１日付け）に中島代表の写真が掲載された。

●梅雨時は風景の撮影が難しくなるが、温室や室内、静物等を探して作品を作ってほしい。

■写真展

●8 月例会で写真展参加者とＤＭ用作品（５点程度）を決定する。

●11 月例会は出展作品確認のため 9 日と 23 日の 2 回行い、12 月例会は中止とする。

●写真展オープニングパーティは会場都合により 28 日（木）となる。

●ギャラリートークは 30 日（土）予定。

●暗室ワークは 10～11 月に行う予定。

会場などを中島先生が検討中。

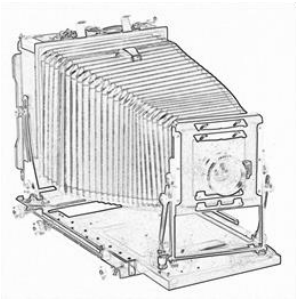
■写大ギャラリー見学

例会後、写大ギャラリー「うつくしきゼラチン・シルバー・プリントの世界」見学会を行った。

2019 年 7 月 13 日（土）

文京区シビックセンター 会議室

・出席者（※印は作品持参）：中島代表、長谷川（勇）※、葛城※、岡崎※、大内※、中澤、小菅※、小川、北野、松本※、倉又、石井（政）※、荒井※、臼井※、金子、浜野、畑※、浜野、川北※、皆川、鶴見※、古谷津※、鈴木（武）、鈴木（知）※



■写真展

●写真展のタイトルとサブタイトルは「光への探求 ― 銀塩写真の魅力」に決定した。

●ギャラリー１階の展示は全紙フレーム 3～4 点可能。5 階会場の作品と重複しても可。

■ヨセミテ撮影会

●ヨセミテ撮影会は都合によりペンディングとなった。屋久島など遠出の撮影会を企画したい。

■研究会紹介名刺サイズパンフ

●研究会紹介の名刺サイズパンフを三浦氏がデザイン中。本日デザインサンプルを回覧し修正箇所を検討した。これを基にして今後詰めていく。

■イモジン・カニンガム作例写真解説

●イモジン・カニンガムの作例写真を投影。中島代表に解説していただいた。

【トピックス 】

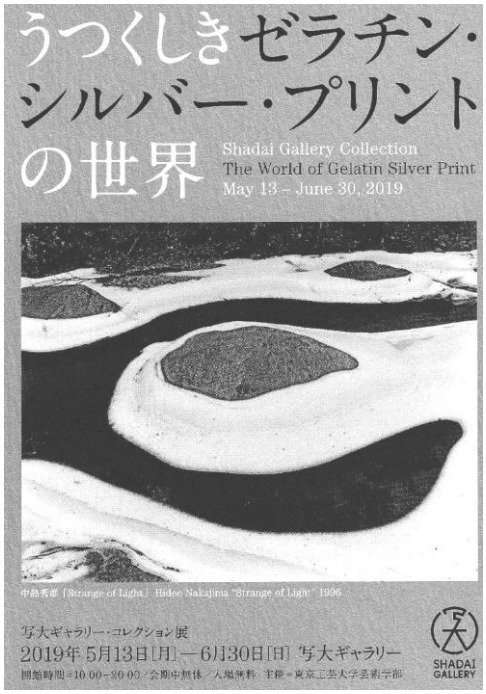
[うつくしきゼラチンシルバープリントの世界展見学会]

2019 年 6 月 8 日 （土）例会終了後、工芸大の写大ギャラリーで行われた、「うつくしきゼラチンシルバープリントの世界」展の見学会が行われました。

この展覧会は、工芸大が所蔵するモノクローム銀塩ファインプリントからセレクトして展示されたもので、アンセル・アダムスやエドワード・ウェストンなどはもちろん、中島代表の作品も含まれています。

今回の DM には中島代表作品も掲載され、日経新聞文化欄に掲載された際も中島代表の作品が採用されていました。

会場においては、それぞれの作品を中島代表に解説をしていただき、奥深いゼラチンシルバープリントの世界を存分に堪能できた見学会でした。



2019年（令和元年）6月1日（土曜日） 文化 36

文化

中島秀雄「Strange of Light」（1996年）

写大ギャラリー・コレクション展「うつくしきゼラチン・シルバー・プリントの世界」より（30日まで、東京・中野、写大ギャラリー）©中島秀雄

日経新聞文化欄に掲載

Information

【売ります】

■中島秀雄

- **ペンタックス**
  デジタルスポットメーター用 皮ケース
  4500 円
- **8x10 用 引伸しレンズ**
  シュナイダー240mm
  50000 円
- **4x5 コールドライトヘッド付 引伸し機**
  （ダースト 1000 改）
  80000 円

［表紙の作品］

・作者：大内元
・タイトル：熊沼
・フィルム：TMAX400
・フォーマット：4x5
・レンズ：210mm
・絞り：f32
・シャッター：1/4 秒
・ゾーン：明るい水面（Ⅶ）
　　遠景広葉樹（Ⅴ）
・印画紙：ILFORD MGFB Classic

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

［以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。］

１．写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリント又は JPEG データでお願いします。
２．手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。
　・ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの。
　（スキャナーでパソコンへ入力します。）
　・パソコンの電子メール
　・ウィンドウズの Word2000-2010
　・text ファイル
　（ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2010 で作成しています。）
　ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に御連絡をいただくようお願いします。
３．イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

［編集部］　荒井　崇